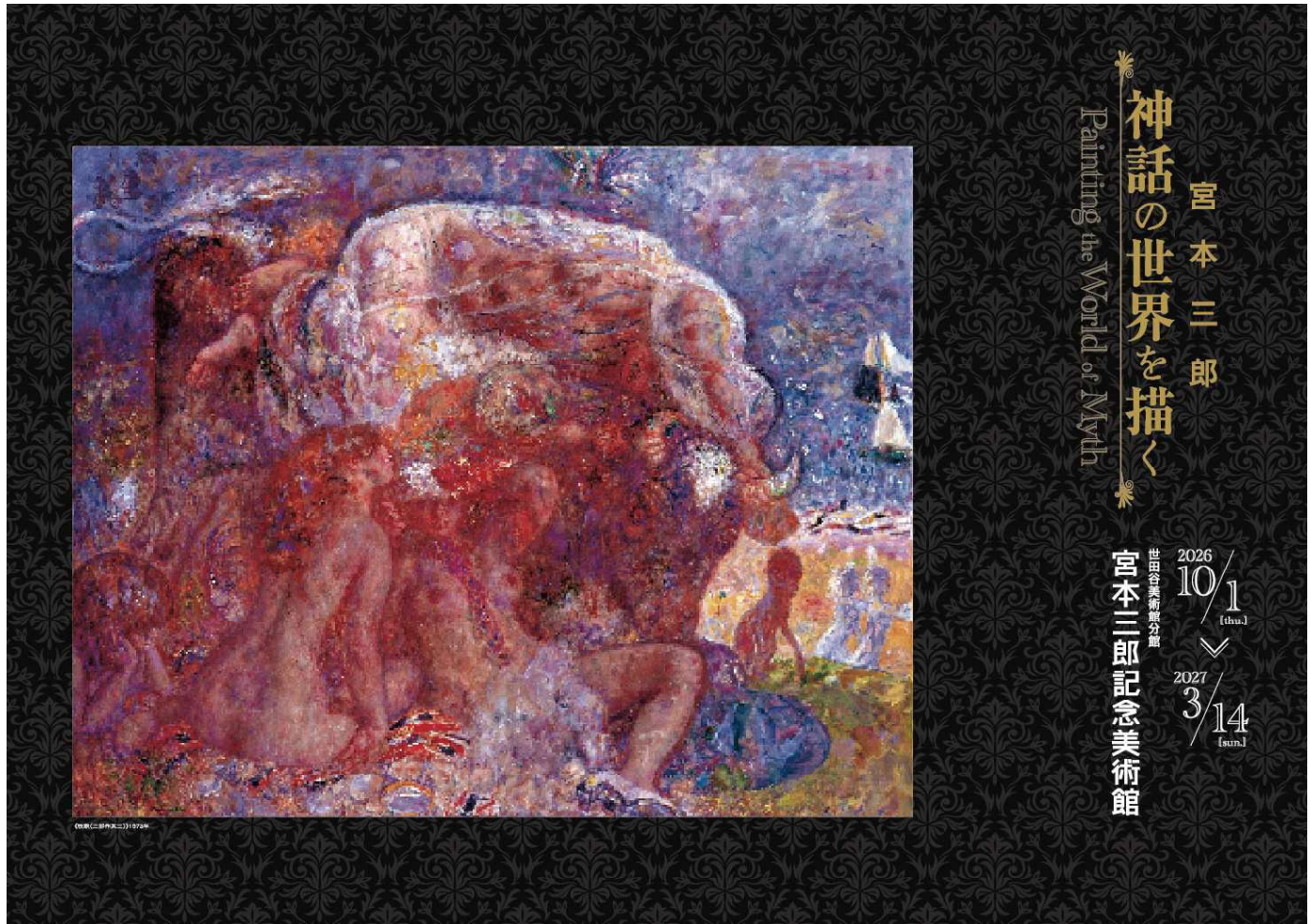




◆ 基本情報

- 展覧会名 宮本三郎 神話の世界を描く
- 会 期 2026 年 10 月 1 日 [木] ~ 2027 年 3 月 14 日 [日]
- 会 場 世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館
〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-38-13 TEL:03-5483-3836
<http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>
- 主 催 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷美術館
- 開館時間 10:00~18:00 (入館は17:30まで)
- 休 館 日 毎週月曜日 (ただし、祝・休日と重なった場合は開館、翌平日休館)、
年未年始(2026年12月28(月)-2027年1月4日(月))
※10月12日(月・祝)、11月23日(月・祝)、1月11日(月・祝)は開館、
10月13日(火)、11月24日(火)、1月12日(火)は休館
- 観 覧 料 一般220円(180円)、大高生170円(130円)、65歳以上/中小生110円(90円)
※()内は20名以上の団体料金
※障害者の方は110円(90円)、ただし小・中・高・大学生の障害者は無料。
介助者(当該障害者1名につき1名)は無料。証明書をご提示のうえ、お申し出ください。
※世田谷区内在住・在校の小・中学生は土日、祝・休日は無料
※受付で生活保護受給証明書をご提示頂いた方は無料

◆ 展覧会概要

卓抜した写実表現で知られる洋画家・宮本三郎(1905-1974)。宮本は、西洋美術から多くを学び、ときに神話や宗教を主題とした作品も手がけました。とくに晩年に数多く描かれた絢爛な色彩の裸婦像には、ギリシャ神話をはじめとするさまざまな物語が重ねられていきました。

1971年、「花と裸婦 女神たちの復活」と題した個展で宮本は、「主題を“神話”に踏み切ることから、構想の中にかえって“人間”を置く楽しさが加わり、従来よりは一層の困難を経験しながらも、新たな情熱をかき立てられ、数点の大作を得ました」と述べています。没後、遺された膨大なデッサンの中からは、それらの大作を統合し、巨大な祭壇画のような作品にまとめようとした構想を示すスケッチも見つかっています。神話を描くことは、宮本が自らの画業の一つの到達点として見定めた、最晩年における重要なテーマだったといえるでしょう。

本展では、西洋の神話にまつわる絵画を中心に、日本の仏像を描いた作品なども加え、東西の文化に根差した造形をご紹介します。写実の画家が描き出した、幻想的な神話の世界をお楽しみください。

□各画像は広報用として提供しております。ご希望の際は広報担当までお問合せください。
TEL:03-5483-3836 E-mail:miyamoto.annex@samuseum.gr.jp



1 《ヴィーナスの粧い》 1971 年



2 《寂光》 1964 年



3 《牧歌（三部作其三）》 1939 年

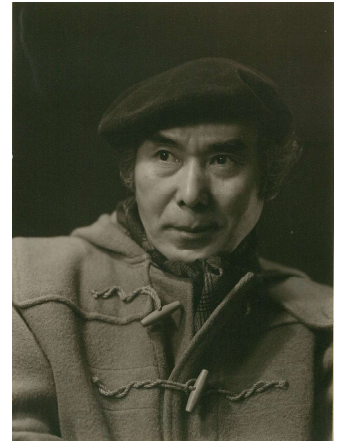
◆ 宮本三郎記念美術館

◆ 宮本三郎について

宮本三郎(みやもと・さぶろう)は、1905年5月23日に現在の石川県小松市松崎町に生まれ、1935年7月より世田谷区奥沢にアトリエを構えた、昭和を代表する世田谷区ゆかりの洋画家です。

川端画学校で富永勝重、藤島武二、また個人的には安井曾太郎に指導を受け、戦前は二科展を中心に発表を行いながら、雑誌の挿絵や表紙絵の制作でも活躍。戦時中は従軍画家として藤田嗣治、小磯良平らとともにマレー半島、タイ、シンガポールなどに渡り《山下、パーシバル両司令官会見図》(1942年)をはじめ、数々の作戦記録画を制作しました。戦後は、熊谷守一、田村孝之介らと第二紀会を設立。生来の素描力を土台に、さまざまに画風を変えながらも、人物を主たるテーマとして制作、晩年は花と裸婦を主題にした豪華絢爛な絵画世界を構築します。

1974年10月13日、腸閉塞による心臓衰弱のため、69歳で他界。



撮影 藤原正 (撮影年不詳)

◆ 会期中のイベント

ワークショップ、ギャラリートークなどのイベントは決定次第、当館HP,SNSにてお知らせいたします。



参考：2026年8月11日～12日開催
「サマー・ワークショップ2026 水と、涼と、宮本と。」

◆ 公式Instagram (宮本三郎記念美術館)



@MIYAMOTOSABUROMUSEUM_ANNEX

◆ お問い合わせ先

宮本三郎記念美術館 (広報担当)

Email : miyamoto.annex@samuseum.gr.jp

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13

TEL : 03-5483-3836